



# 大西脳神経外科病院だより 第28号

# ぶれいん

発行日:平成25年7月吉日

発行人:学術図書委員会

発行責任者:大西 英之

編集責任者:吉野 孝広

## Joint Neurosurgical Convention

The 6th International Mt. BANDAI Symposium for Neuroscience | 2013  
The 7th Pan-Pacific Neurosurgery Congress



### 「JNC2013を開催して」 院長 大西 英之

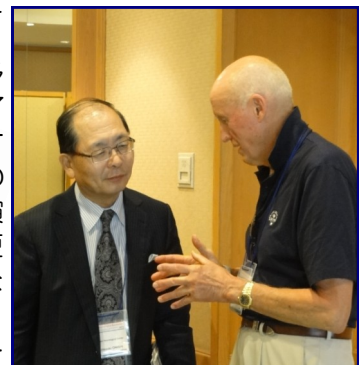
2013年1月30日から2月3日までの5日間、ハワイ島でJNC 2013を開催させて頂きました。この会はThe 6<sup>th</sup> International Mt.Bandai Symposium for Neuroscience (会長:北大宝金清博教授)と The 7<sup>th</sup> Pan-pacific Neurosurgery congress (汎太平洋国際脳神経外科学会、会長:小生)との合同学会でした。

この会は日本人が主催しますが公用語はすべて英語と言うユニークな会で、若手医師が国際学会に親しみ、今後国際的に活躍して頂ける場の提供や英語力の向上を目的として開催されました。今回は都会の雑踏そのままのオアフ島を離れ雄大な自然が残っているハワイ島で開催しました。総勢281名、海外からは21名の参加がありました。学会直前になり中国、台湾、韓国からの演題はキャンセルが続きました。日本にい

#### 開会のあいさつ

て我々が感じる以上に領土問題はこれらの国々では敏感な問題になっていると感じました。

演題総数は108題と過去最大の演題数でした。出来るだけ多くの方に講演をして頂きたく計画しました。学会の開始は朝の7時30分から終了は夜7時までと延々11時間半に及び強行スケジュールを組みましたが、演題数が多く、General sessionの33題はposter sessionに組み入れました。特別講演や教育講演ではそれぞれの演者のライフワークの話をして頂きましたので短時間で世界の第一線の研究成果を聞くことが出来、大変勉強になりました。会長として毎日朝の7時から会場に詰めていました。夜は每晚10時頃までバンケットがありましたのでとても長い一日でした。学会中半日、2回の休息時間は本当に息抜きの時間で、ハワイの自然と気候を満喫しました。



professor Tewと院長

私たちの年齢層が第一線で活動していた時と比べ若い人たちの英語力は格段に上達していると思えました。最近、海外留学する日本人が少なくなっており、中国や韓国に比べはるかに少人数になってきており憂慮していましたが、日本人の底力が垣間見られたようで少しは安堵しています。今の日本の脳神経外科の現状は世界をリードしていると言っても過言ではないと思えますが、近い将来、サッカーや野球のように若い日本人脳外科医が海外で活躍している状況を思い浮かべています。最後に今回このような会を開催させて頂き、多くの方々からご援助を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



事前打ち合わせを綿密に行う

## ハワイでの国際学会を主催して -第6回パンパシフィック脳神経外科学会記録-

理事 埜本 勝司



勿論英語で質問です



阿部 弘 先生  
Fady T. Charbel 先生  
埜本 勝司 先生

2013年1月29日から2月3日まで米国ハワイ島で Joint Neurosurgical Convention 2013が開催されました。この国際学会は第6回磐梯国際神経科学シンポジウムと第7回パンパシフィック脳神経外科コンGRESの合同学会で3年に1回米国ハワイ州で開催されてきたユニークな会議ですが、約4年前、その合同会議の一つであるパンパシフィック脳神経外科学会の会長に大西英之院長が推挙されました。当時は勝手のわからぬ国際学会のお世話は荷が重すぎるのではとの意見を述べましたが、院長はこの機会に国際的な広い視野をもった病院にしたいとの強い意志で引き受けられ、下見を兼ねてこの学会に参加したのが3年前の前の学会でした。以来3年間、その準備の一端を

担い色々準備を進め、合同開催の磐梯シンポジウムの会長である北海道大学の實金教授との会議や旅行者と度々打ち合わせをしながら次第にその形を整えていきました。

特に昨年1年間は院長の多忙さに拍車がかかり、そのお手伝いをした私にとってもかなりのストレスでしたが、引き受けたからには恥ずかしくない学会にしたいという共通の思いがありました。昨年末に漸くプログラムがまとまり、全ての準備が整ったのは学会直前のことでしたし、旨くいくだろうかという一抹の不安がありましたが、それは杞憂に終わり想像以上に成功を収めたと思っています。

学会は日本からの参加者が大部分でしたが、アメリカを初めアジア諸国から著名なゲストの参加もあって約300人が一堂に集い、6日間にわたりハワイ島ワイコロアのヒルトンホテルで盛大に開催されました。当院からは院長、副院長、事務長以下総勢16名が参加し、それぞれの役割を果たしました。我々にとっては過去に経験したことの無い国際学会の世話役であり、語学のハンディもある中で大きな混乱も無く学会を遂行できたことは自信にもなりました。終わってみれば、その準備や開催につぎ込んだ多くの時間や費用や苦勞も、その成功によって報われた様に感じています。これを契機に国際的な視野を広げ、更に実力と団結力のある病院を目指してこれからも努力していきたいと思っています。



パント先生のご家族と一緒に

16名のスタッフがそれぞれの責任で学会を成功させるべく行動しました。早朝から打ち合わせを行い、慣れない土地で各々が集中し意見を持ち、学会参加者に「良い学会だった」と思ってもらえるよう工夫し頑張りました。

院長は参加者の皆さんにずっと学会が終了するまで挨拶をされていた印象があります。その姿は「実るほど頭を垂れる稲穂かな」といった感じでした。

院長は常に気を配り皆さんに挨拶をされていました。



## 学会会場にて撮影

中央に 院長と John M.Tew, jr. M.D



早朝から準備開始、その前に記念撮影

# 神戸新聞

2013年(平成25年)5月7日 火曜日

## 助かった命 故郷で生かす

主治医に Arigatou



「Arigatou」と書かれたカードを手に笑顔を見せるマハラ・サタナさん(中央)と大西英之院長(左)＝明石市大久保町江井島

術後、右目の視力も少し回復。マハラさんは笑顔を取り戻し、「大西先生は最高の医師。将来は自分もネパールでこんな医療を実現させたい」と目を輝かせる。大西院長は「専門医不足に悩む故郷で、多くの患者を救える人材に育ってほしい」とエールを送った。

「ネパールで医学を学ぶ」を受診。視神経を圧迫する大学生のマハラ・サタナさん(22)が、昨年、学生同つかり、急激に視力が落ちて視力測定の実習で右目が見えにくく、同国で命の危険があるが、同国は少ない脳神経外科医の技術や設備では手術が

「ネパールで医学を学ぶ」を受診。視神経を圧迫する大学生のマハラ・サタナさん(22)が、昨年、学生同つかり、急激に視力が落ちて視力測定の実習で右目が見えにくく、同国で命の危険があるが、同国は少ない脳神経外科医の技術や設備では手術が

### 脳動脈瘤のネパール医学生

脳の血管に大きなこぶができたネパールの女子医学生が来日、大西脳神経外科病院(明石市大久保町江井島)で約16時間に及ぶ手術を受け、一命を取り留めた。視神経が圧迫され一時は右目が失明寸前になったが、術後は後遺症もなく回復。医師になる夢に再び光が差し、自ら描いた桜の絵に「Arigatou(ありがとう)」の言葉を添えたカードを主治医に託した。8日、帰国の途に就く。(岩崎昂志)

### 明石の病院で手術成功

主治医は諦めず、以前からネパールに通い医療支援を続けている大西脳神経外科病院の大西英之院長(66)に、日本での治療を打診。渡航や医療費で同病院の支援を受け、来日が実現した。

一般的に脳血管のこぶは直径5mm程度で破裂の恐れがある。マハラさんのこぶは3cmと危機的な状態。入院中も医学書を読みふけては「目はどうなるの。命は。後遺症は」と不安がった。大西院長らは、マハラさん自身の腕の血管を移植する開頭手術を決断。4月上旬、視神経を避けて慎重にメスを入れ、こぶの血流を止め、血管のバイパスをつくる手術に成功した。

世界に目を向けている院長の姿勢がこうやって形になる。「ネパールとの関わりは学生時代から」と院長は言われた。登山によって得た人脈、Drパントとの出会いなど、話を聞くと院長の人柄が分かる。マハラさんの来日もその人脈と人柄があればこそで実現したのではないだろうか。



## 国際学会に参加して

看護部 看護副部長 木村 ひとみ



## 朝6時半には会場に行き準備に取り掛かる

2013年1月29日から2月4日、ハワイ島ヒルトンワイコロアビレッジで開催された、第6回BANDAI脳神経外科シンポジウム、第7回汎太平洋脳神経外科学会に参加させて頂きました。汎太平洋脳神経外科学会は、当院が事務局であることから、総勢16名の参加となりました。関西空港を22時頃出発しホノルルを経由し、ハワイ島へ到着しました。ホテルへ到着後、すぐに学会会場へ移動しハードスケジュールでした。学会は毎朝7時30分から始まりそれぞれ役割を分担して業務にあたりました。私は、受付を担当したのですが、英語力が身につけていないため外国の方に質問されてもアムソリー、ジャストモーメントとしか答えることが出来ず、この時ばかりは英語を勉強しておけば良かったと痛感しました。

学会は、演題発表、特別講演、ポスターが行われ、発表から質問すべて英語で行われていました。

残念ながら内容までは理解することは出来ませんでした。が著明な先生の講演を聴くことが出来て光栄でした。現場に触れ熱心に討議する場面を見て、文化の違いはあれ、医療に携わる人々の心は同じだということを感じました。

学会最終日のバンケットでは、男性はアロハシャツを着て、女性は花柄の赤いムームーを着てゲストをお迎えしました。そこでは他の病院の方との交流を持つことが出来、楽しく過ごすことが出来ました。また、ゴルフコンペも開催され、その時間を利用して自由時間を過ごしました。ホテル周辺の敷地内は、モノレールやボートで移動します。ゆっくりと走るボートに乗ったり、美しい海岸線を散歩して楽しみました。海に沈む夕日や、夜になると満天の星空はとても美しく、大自然の中で日常を忘れることが出来て癒されました。ホテル近くにショッピングモールがあり、バスに乗り1人で出かけました。お店やレストランに入り、積極的に話しかけなんとか身振り手振りでコミュニケーションをとることが出来たことは私にとっては大きな収穫でした。一日をゆっくりと過ごしハワイを満喫することが出来ました。最後になりましたが国際学会は初めての参加で大変貴重な体験をすることが出来ました。このような機会を与えて下さったことに深く感謝致します。



学会終了後はみんなで食事  
ほっと一息の瞬間です



## 「異国の地ハワイは、時に和やか、時に冷や汗が…」

事務部次長 瀧原 健司



2人がいてこそこの学会成功です

学会会長を務める大西院長を隊長とした先発隊一向（8名）が関空を飛び立ったのは、雪が舞い落ちる1/27（日）の夜でした。約8時間のフライトで常夏の島ハワイへ。機内で一枚、また一枚と薄着になる乗客。しかし、理解していなかったのが、ハワイの冷房事情でした。何処も冷房ガンガン、無茶苦茶寒いのです。特に空港は…。

ハワイ島コナ空港に到着後、ホテルまで道のりは、日本とは感覚が違い、ゆったりとした一直線のハイウェイ、まさにアメリカン！ 途中、ハイウェイの両側の黒い溶岩の上には、白い石で名前などが描いてある、ハワイ島独特の風景が見られました。

学会会場であるヒルトン ワイコロアビレッジ到着後、すぐさま先発隊は真剣なまなざしで会場となる広大な施設内を視察。関係者と入念な打ち合わせが行われました。



当院主催のバンケットが好評を得て終了。院長を中心にほっと一息の閉会后です。

世界各地から脳神経外科専門医が集う当学会は、英語を公用語としており、参加された医師は皆、流暢な英語で挨拶やスピーチ、発表をされました。そんな中、身振り手振りを交え奮闘する事務局メンバーは、常時カメラを片手にファインダーを覗き込み、シャッターチャンスを狙っていました。（苦笑）学会のメインイベントであるバンケット（当院主催）のフィナーレでは、参加者より盛大な拍手を頂き、無事に幕を閉じることができました。ホスト病院として参加したメンバーの心が一つとなり、結束した瞬間でもありました。そして、その成功の裏には、大西院長をはじめ坪本理事、久我副院長、藤井事務部長の数年前からの並々ならぬご努力と準備があったからこそと感じました。今回の学会参加を通して、“人”の大切さや、何事も“熱意”をもって取り組むことが、目標達成の秘訣であると改めて実感しました。



## Joint Neurosurgical Convention 2013に参加して

診療放射線技師 副技師長 佐藤 直隆

この1月にハワイ島で行われた国際学会—Joint Neurosurgical Convention 2013—の世話役として参加させていただきました。ハワイと聞くと常夏というイメージでしたが、とても涼しく、朝晩は寒く感じました。雨季だから・・・??

学会が始まるとすべて英語での会話という点に驚きを感じ、また同時に話す事の出来ない自分自身に無力さを痛感しました。今回は記録係であったため、学会中の写真また動画の撮影に徹しました。慣れないカメラでの撮影、また学会中の暗い状況での撮影は非常に難しく、なかなか思うような撮影ができません



開院から常に行事に関わってきた3人息もぴったり…です?

んでした。何とかそれなりの写真が撮れてきたなと思った時すでに遅しという結果でした。事前準備が足りなかったと反省しています。

記録係の他に学会中のGolf Tournamentもスタッフとしてお手伝いさせていただきました。十数組のパーティのバッグチェックまた景品の調達は、現地のゴルフ場スタッフとの会話もままならず、身振り手振りでなんとか無事に終える事ができホッとしました。ただゴルフ中写真撮影の際、すばらしい景色を見れた時は心が癒されました。

学会中仕事の合間にはさまざまな先生方の発表を

見せていただきました。内容に関しては英語であったため少ししか理解できませんでしたが、プレゼンテーションに出てくるMRI・CT等の画像を見ていると、先生方がどのような画像を必要とされるのかとても勉強になりました。画質自体はうちのスタッフならもっといい画像が出来る

のではないかと、思う事もあり少し自信が持てました。

今回参加させていただいた事で、自分自身の人生の中でとても意味のある経験・体験が出来たと感じています。今後当院が担当する学会が開催される時、担当者が自分のすべき事を十分に把握しておく等、事前準備の重要性また学会中の報告・連絡・相談・がスムーズな運用につながる等々、今回の経験が役に立つと思います。

最後に今後自分のフリーの時間には、英会話またカメラを少し勉強しようかな・・・と思っています。国際学会に参加させていただき有難うございました。



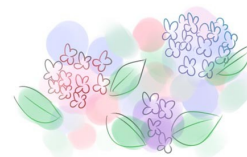
学会終了後の一息

裏方として無くてはならない二人の存在、お疲れさまでした。



## 「4月にドキドキ」

副院長兼統括看護部長 山本 孝子



### 笑顔の中にも厳しい眼差し

4月にドキドキ、ワクワクしながら着任させて頂き、2ヶ月が過ぎました。初日に当院のシンボルマークの三つの葉が科学・芸術・人間愛という病院の理念を表しているとお聞きしました。この理念に基づいて求められる看護のありよう

を考えると医学的知識を学び、看護におけるアセスメントを行ないながら、患者・家族の気持ちを汲み取ったうえで看護実践を行うこと、さらに地域への連携が求められていること再確認させられました。

当院は脳神経外科病院として国内において高い評価を受けていますが、これは開院当初から今日に至るまで職員の皆様が協働しながら、切磋琢磨されてきた努力の賜物だと思います。また、脳神経外科の看護は細心の注意と観察力、的確な判断、粘り強さが求められます。それゆえに、患者さんのわずかな回復をキャッチして、患者さんやご家族と共に喜びを分かち合えるという楽しさもあります。日々学ぶこと、そしてその

学びを糧にできるように、これからも自己研鑽を続けていきたいと思います。その環境整備ができるように努力をしたいと思います。

6月1日に新病棟への移動がおわりましたがまだまだ忙しい日々が続いています、一致団結して無事に新たな一歩を踏み出すことを目標とし、まずは体力と気力と、日々北館と南館を往復する日々です。大西脳神経外科病院のさらなる飛躍の年に、皆様と共に新たな一歩を踏ませて頂くことを嬉しく思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



増築棟竣工式典受付お疲れ様でした

よろしくお願いします!

平成25年 新入職員歓迎会

新入職員を迎え院長一同歓迎の心を込めて

4月16日、平成25年度新入職員の歓迎会が西明石キャッスルプラザホテルにて盛大に開催された。今年度は病床40の増床により新棟が建設される。そのため新入職員も過去最大の42名（1月～4月までの入職）を数え、歓迎会も135名の参加となった。特に看護部は山本統括看護部長兼副院長をはじめ25名の新入職員を迎え、今後新病棟の開設に向け更に増員が予定されている。



毎年恒例の新人歓迎会にも当院での歴史がある。開院当初は新入職員歓迎会も病院行事では無く有志が集まり行っていた。2003年から院長からの申し出で病院行事として行い始め場所も変えて行われているが、職員数の増加と共に開催場所は限られて来ている。とは言え場所や料金が重要では無く新しい仲間を温かく迎え入れて共に協力してより良い病院を作り上げていくための懇親の場となることが重要である。今年の新入職員が来年の歓迎会でこの日の事を共に思い起こせることを願っている。

今年度の新入職員を合わせると職員は200名を超える、しかし！理念を掲げ一致団結



## 新病棟が完成しました

増床に伴い新病棟を建て次のステップを踏む大西脳神経外科病院。ぶれいんでは職員の皆様に病院の生い立ちを知って頂こうと、古い写真を取り出し、掲載してみました。今回は外観の変化を特に意識して写真を載せました。次回から新しくなった各部署の紹介を交え、内観、設備などを紹介していきます。 **ご期待!**



大西脳神経外科病院建設予定地です。1998年撮影した3枚の写真を合わせています。建設前は写真からも分かる通り農地でした。今の様子からは想像が付きません。どの辺りに病院が建てられたのか分かりますか。

下の写真は2004年報用の病院全景写真です。病院南側の駐車場はまだありません。撮影場所はマンションですね、分かりますか？



上の図右端の民家は開院当時には無くなっています。写真のバイクと民家の間あたりが今病院の入り口になっています。

下の図は病院前の交差点です。ガソリンスタンドとの位置関係で病院の入口がどの辺りかわかると思っています。



この写真は既に裏の駐車場が作られています。開院当時は裏の駐車場がなく農地でした。予想以上の外来患者に駐車場がなく、交通整理に警察が来ることもありました。右写真は2012年に撮影されたものですが、道路から見える大西脳神経外科病院の文字も最初は無かったんですよ。



南館

北館



ついに新棟も完成!! 外観で目を引くのは新棟手前の反射ガラスです。中にいるとわからないのですが、通勤の時明姫幹線から見るとかなりインパクトがあります。8階建ての外観は迫力満点ですね。

## 「関心」

## 春から梅雨そして夏に向けて



## 気象学的に梅雨は夏って知ってます？

毎年天気予報で梅雨入り、梅雨明けなどと耳にします。みなさん梅雨が初夏に入るってご存知でしたか？梅雨が終わると夏だと思っていた私は暦を調べて「なるほど」と感心し…そんなこと常識ですよと言う声も聞こえますが、そこは無視して、今回の「関心」は「梅雨（つゆ）」です。

梅雨入りと聞いて嬉しくなる人はあまりいませんね。「カビが…」とか「じめじめして…」など良いイメージにはならないようです。しかし農家の方にとってみれば自然の恵みであって大切な時期でもあります。我々にだって水不足は深刻な問題になります。こんな大切な梅雨ですが意外と知られていない事も多いようです。

## 梅雨の定義

梅雨とはウィキペディアによると「北海道と小笠原諸島を除く日本、朝鮮半島南部、中国の華南や華中の沿海部、および台湾など、東アジアの広範囲においてみられる特有の気象現象で、5月から7月にかけて毎年めぐって来くもりや雨の多い期間のこと」とあります。梅雨って日本だけのものじゃないんですね。

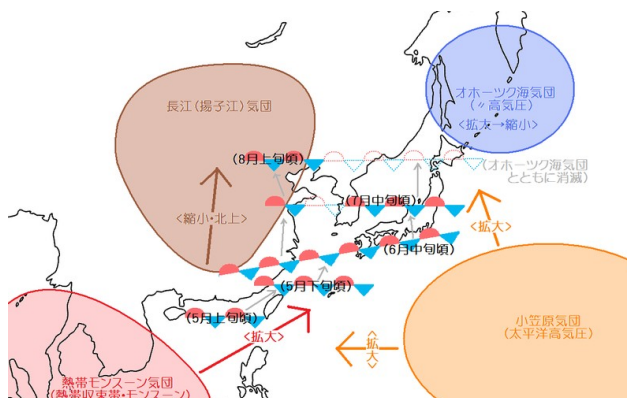
## 梅雨の語源

梅雨という言葉は、中国から「徼雨（ばいう）」として伝わり江戸時代頃より「つゆ」と呼ばれるようになったようです。中国では徼（かび）が生えやすい時期の雨という意味で「徼雨（ばいう）」と呼ばれていたのを、カビでは語感が悪いため、同じ「ばい」で季節柄にも合った「梅」の字を使い「梅雨（ばいう）」になったとする説が有力だそうです。日本歳時記に「此の月淫雨ふるこれを梅雨（つゆ）と名づく」とあります。「つゆ」の由来は「露」にあるようですが明確な記録はないようです。言葉の韻を大切にす日本独特の言い回しなのでしょか。



## 梅雨はなぜこの時期に？

語源がなんとなく理解できたところで次は実際になぜ梅雨が来るのかを調べてみました。う～ん…難しいなあ



雨は前線によってもたらされるっていうのはわかりますよね。この時期日本の周りには性質の異なる4つの気団（空気の塊）があります。梅雨に直接関係するのは小笠原気団、いわゆる太平洋高気圧（図右下黄色）と北海道より北に位置するオホーツク海気団（図右上青色）です。オホーツク海気団は冷たく小笠原気団は暖かいためこれらがぶつかることで梅雨前線となるのです。しかも湿った空気を多く含んでいるため、雨が多くなります。停滞するのはこの二つの気団の勢力が均衡する事とその周囲にある乾いた二つの気団（図左中央と左下）の影響も受け日本上空に一月以上も停滞する事になります。押し競まんじゅう状態とでも言うのと解り易いですが…

## 梅雨を楽しむ

本当に簡単にまとめましたが、梅雨の仕組みがなんとなく分かって頂けましたか。こうやって梅雨について調べてみるとじめじめした梅雨も少し身近に感じ、長靴を履いて水たまりを楽しんだ子供のころを思い出します。つつい憂鬱になるこの季節、雨を楽しむ心のゆとりがあると色々な物の見方も少し変わるのかもしれない。

## 編集後記

新棟が完成し少し落ち着きを取り戻しつつもまだまだ今年いっぱい何かと大変な様子。各部署ともやるべき事は山積しているのではないのでしょうか。今回のぶれいんはハワイ学会を中心にまとめてみました。原稿をよくばって依頼したため構成に苦労しましたが、なんとか納まり、紙面も久々に8ページとなっています。ところで皆さんこの「ぶれいん」が第1号から病院の

ホームページに掲載されていることをご存知でしょうか。表紙やレイアウトも今とはまた違います。いま読み返してみると懐かしい思いがします、是非一度ご覧下さい。

初夏と言うのに夏真っ盛りの様なこの蒸し暑さの中、体調管理も難しいですね。しかしこんな時こそ睡眠と栄養をきちんと取り…と自分に言い聞かせながら、やっぱりビールに手が伸びています…（吉野）

